

11月大阪自然史フェスティバル・シンポジウム

みんなであつろう 大阪湾岸の自然

～シギ・チドリの渡来地を取り戻そう～



11/16
(土)

14:00-16:00

会場
大阪市立
自然史博物館
講堂

申込不要・入場無料

※関西文化の日につき博物館も入館無料

何千キロという長い渡りの中継地として大阪湾の干潟や湿地を利用して命をつないできたシギやチドリ。大阪湾岸の自然はこの100年で大きく損なわれ、シギやチドリも減少の一途をたどっています。生物多様性の宝庫である海岸線の自然をどう守っていくか、世界がネイチャーポジティブを目指す今、シギ・チドリを通して、大阪の自然の未来を市民の側から考えます。

- 開会挨拶
夏原由博（公社）大阪自然環境保全協会会長
- 基調講演
「シギ・チドリをめぐる現状と課題」
守屋年史（認定NPO法人バードリサーチ研究員）
- 話題提供およびトーク・セッション
「大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画」
納家 仁（日本野鳥の会大阪支部長）
「東京湾の干潟保全について」
葉山 政治（日本野鳥の会常務理事）



大阪自然史フェスティバル

Live配信、アーカイブ配信あり

問い合わせ先：

月・水・金（10時-17時）大阪自然環境保全協会

電話：06-6242-8720 office@nature.or.jp

火・金（10時-18時）日本野鳥の会大阪支部

電話：06 - 6766 - 0055

https://wbsjosaka.com



▲日本野鳥の会
問い合わせフォーム

共催：（公社）大阪自然環境保全協会・日本野鳥の会大阪支部

協力：SDGs万博市民アクション（2024年度地球環境基金）

後援：WWFジャパン・（公財）日本自然保護協会・

（公財）日本野鳥の会・認定NPO法人バードリサーチ



地球環境基金

Japan Fund for Global Environment

このイベントは2024年度環境再生保全機構地球環境基金の助成「SDGs万博市民アクション」をうけて開催しています。





シロチドリ *Charadrius alexandrinus* (チドリ目チドリ科)



群れ：2024年3月28日、夢洲の湿地（万博時には水が入れられ「つながりの海」になるところ）に50羽を超えるシロチドリがいた。

シロチドリは、かつては一年を通じ、大阪の海岸でも普通に見られるチドリでしたが、今はまれにしか姿を見ることができなくなるほど個体数が減っています。海岸部の開発の影響で、全国的にも数を減らしていますが、自然の浜辺がほとんど残っていない大阪では、夢洲などの湾岸部の造成途中の埋立地で、わずかに繁殖しているにすぎません。集団コロニーを作らないので、ときにはコアジサシのコロニーの中に紛れるようにして一緒に子育てをしていることもあります。しかしこのまま行くと、さらに数を減らすだろうと思われています。

私たちは、今まで、シロチドリなどが繁殖できる海浜環境をつぶしてきました。今、繁殖できる海浜環境をなんとか工夫し確保して、これらの貴重な野鳥たちの種を保護していかななくてはならないと思っています。そのためにもどうしたらいいのか、一緒に考えましょう。



チドリのなかでは、一番数が多くよく観察できたシロチドリではあるが、近年全国的に急激に減少しており、絶滅危惧II類指定種（大阪府・環境省）となっている。

全長17.5cm 留鳥として、海岸部の砂浜や干潟、埋め立て途上地などに生息する。

鳴き声は、ピュルピュル、繁殖期にはケレケレケレという声やポイツという声も出す。

繁殖期は4-7月頃で、海岸の砂浜や大きな河川の中洲の砂礫地などの、ばらに生えた背の低い草の陰などに、地面に直接貝殻や小石などを集めた簡素な巣をつくり、2-3卵を産む。

雌雄交代で抱卵し、抱卵期間は23-29日。

ヒナは孵化後すぐに歩くことができ、親鳥について歩き、自分で餌をとって、孵化後およそ3週間で飛べるようになる。

配慮事項

シロチドリは、コアジサシのように、集団営巣する鳥ではないため、巣の場所の特定が困難。卵は保護色であり、極めて発見は難しく、工事車両などの通行する場所の近くなどで営巣していても気づきにくい。ヒナは卵からかえるとすぐに歩くことができ巣の場所を離れる。親鳥が警戒の声を上げると、そのまま地面に座り込む。ヒナも保護色であり、座り込んで動かずにいると鳥であると認識することは困難。親鳥は、親は巣に外敵が近づくと翼を広げて身を屈め傷ついた振り（擬傷）をして巣から離れ、外敵の注意を巣から反らす。この行動が見られた場合、近くに巣やヒナがいるので、そのエリアにはひと月程度立ち入り禁止区域とする、などの配慮が必要。

コチドリ *Charadrius dubius* (チドリ目チドリ科)



シロチドリよりやや小さく、シロチドリとおなじような環境で繁殖する。準絶滅危惧種（大阪府レッドリスト）



発行：NPO法人 AMネット（2024年10月1日：2500部）
デザイン：認定NPO法人 大阪自然史センター

